

【学園研 B】

1. 研究課題名

室内空間の設えと心理的評価に関する実験的研究

2. 研究代表者名

所属学部： 生活科学部 職名 講師 氏名 橋本雅好

3. 研究分担者

所 属： 職名 氏名

所 属： 職名 氏名

所 属： 職名 氏名

4. 研究成果の概要（1，200字程度で記入。ただし、図・グラフは使わないこと）

◆背景・目的

家庭で使用するテーブルは、用途ごとに使うだけでなく、食事をしたり、パソコンをしたりというように、一つのテーブルで多様な使い方をするケースも多いのではないかと考えられる。

本研究では、テーブルの天板の色や素材に着目し、その違いにより心理的にどのような影響が与えられるかを調査する。また、机上面での様々な行為を通して、色や素材が与える使用感の評価についても合わせて検証し、一つのテーブルで多用途に適する机上面を検討することを目的とする。

◆実験概要

実験1：机上面の色・素材の印象評価実験

実験2：机上面の色・素材が与える使用感の評価実験

実験空間

床面積 3000 mm×4500 mm、天井高を 2720 mmに設定した。

被験者

本学科学学生 21 名（女性 19～22 歳）。

色・素材の選定

木：メープル、ブラウンメープル

ガラス・アクリル：透明（ガラス）、半透明（アクリル）、黒透明（アクリル）

カラーシート：赤、青、黄、緑、茶、白、黒、灰

合計 13 パターン

行為の選定

実験2は、食事、勉強、パソコンの3行為を選定した。

実験変数

13 パターンの机上面において、実験1の印象評価、および実験2の食事、勉強、パソコンの3行為の使用評価を合わせた合計 52 パターンとした。

◆実験方法

実験1は、被験者にテーブル 13 パターンの天板を体験してもらい、6種類の形容詞を評価軸に机上面から受ける印象評価実験を実施した。

実験2は、実験1同様に、食事、勉強、パソコンの3行為を体験してもらい、使用感の評価

実験を行った。

◆分析方法

実験1では、印象評価の結果を集計し、形容詞ごとに数値をグラフ化した。実験2も同様に、使用したいと思うか否かを行為ごとに集計し、グラフ化した。そして、 χ^2 検定を用い、その数値が統計的にも有意といえるのかを分析し、実験変数ごとの特徴を検証した。

◆実験結果

印象評価

木の素材は、ともにどの形容詞の項目もプラスの評価が得られた。透過素材のガラス・アクリルでは、ア/半透が最も良い評価を得ている。「圧迫感」の項目に関しては、ガラス・アクリル素材が高い評価となり、この項目の評価には透過が関わっていると考えられる。

使用評価

木の素材は、3行為すべてに適する机上面であるといえる。ガラス・アクリルの素材では、食事よりも勉強、特にパソコンの行為に適する机上面であるという傾向がみられた。

◆まとめ

13パターンを分類すると、印象評価、使用評価ともによい評価のグループ、印象評価が中の評価で、使用評価はよい評価のグループ、印象評価、使用評価ともに悪い評価のグループの大きく3つに分けられた。

木/メ、木/ブは印象評価、使用評価ともによい結果で、ア/半透も木の素材に近い特徴をもっているといえる。印象評価が中の評価で、使用評価はよい評価であるグループは、用途によっては適するという特徴があることが明らかとなった。このように、机上面の色や素材の違いによって、心理的影響にも変化がみられるということがわかり、その特徴を明確にすることができたと考える。